

a 学校教育目標	自らの夢に向かって考え、行動できる子供の育成 －自ら伸びる ともに伸びる－	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 自ら考え、ともに考え、行動できる子供の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 「自ら伸びる ともに伸びる」主体的な学び合いの姿がある学校 ・確かな基礎学力をもとに、主体的・対話的で深い学びをめざす子供の姿がある学校 ・誇りとやりがいを持ち、児童・保護者・地域と共に主体的に学び高まり合おうとする教職員の姿がある学校 ・学校の取組を理解し、夢や志をもち安心して生活する子供の姿を応援する保護者・地域の姿がある学校
----------	--	----------------------	---

評価計画					自己評価					改善方策	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント	
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ		
確かな学力	基礎学力を定着させ、主体的・対話的で深い学びを進める力の育成を図る。	・少人数指導の推進と基礎・基本の反復練習の徹底(効果的な帯タイムの計画・実施) ①文法・ことば・聞き取り問題等の実施 ②認知機能トレーニングの実施	国語科・算数科・理科の単元末テスト結果(各学期)	各学期各教科 知識・技能 平均85点以上 思考・判断・表現 平均70点以上											
		・図書館教育の積極的推進 ①読み語り等の多様な読書活動の展開 ②「読みたくなる」環境づくり	年間読書冊数 1・2年生50冊、3年生40冊、4・5・6年生30冊 月間読書冊数 全児童1冊以上	達成した児童の割合 80%以上 達成した児童の割合 95%以上											
		・「問いの設定・探究・解決」の場と「学びのふり返し」がある授業づくりの推進 ①ゴールイメージからの単元・授業構成 ②「指導と評価の一体化」 「メタ認知向上」をめざしたふり返りの工夫と実施 ③課題解決のツールとしてのICT活用	教職員アンケートによる評価 「ゴールイメージから授業が構成できている」 「明確な目的を持った学び合いが設定できている」 「学びに応じたふり返りが実施できている」 「課題解決のツールとしてICTが活用できている」 児童アンケートによる評価 「『学び合い』の場面では、自分の考えを友だちと伝え合うことができている」 「『ふり返し』の場面では、授業の初めより自分の考えが深まっている」 「課題を解決するためにICTを活用している」	各項目肯定的評価 80%以上 各項目肯定的評価 80%以上											
豊かな心の育成	自他を愛し共感する力、思いやりの心、協働する態度を育てる。	自分や自分を取り巻く人々環境を愛し共感する力、思いやりの心、協力し合う態度を育てる。	・カリキュラム・マネジメントをベースとした地域学習の積極的推進 ①地域の教材化 ②地域人材活用の推進	児童アンケートによる評価 「自分や自分のふるさとには、よいところがある」 「自分の周りの人や環境に感謝している」	各項目肯定的評価 80%以上										
健康な体の育成	生涯にわたる健康に対する高い意識を育て、体力の向上を図る。	「体を動かすことが楽しい」「やれば伸びる」と感じ、体力を向上させようと主体的に取り組む態度を育てる。	・体力向上PDCAサイクルの推進 ①外遊びの奨励 ②「なわとび」の推進	児童アンケートによる評価 「週3日以上、運動場や中庭で遊んでいる」 「なわとびで、跳ぶ回数やできる技が増えている」	各項目肯定的評価 80%以上										
働き方改善	新たな教育課題等に適切に対応できる学校体制を構築し、教育の質の向上を図る。	地域・保護者が有する教育力との連携を図り、地域に開かれた教育課程を実現する。 教職員が健康で生き生きとやりがいをもって勤務できる環境づくりを推進する。	・コミュニティ・スクールの導入推進 ①積極的な情報発信 ②導入準備会の開催	学校だよりの発行と配付 月1回以上 コミュニティ・スクール導入準備会 学期1回以上	100%達成										
			・業務改善の継続的実施 ①成績処理日の設定 ②教材研究時間の確保	市「学校における働き方取組方針」の「勤務上限目安時間」 時間外勤務時間月45h以内	100%達成										

【j:自己評価 評価】
A:100≦(目標達成) 達成)<100 B:80≦(ほぼ達成)<100
【l:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。ハ:分からない。